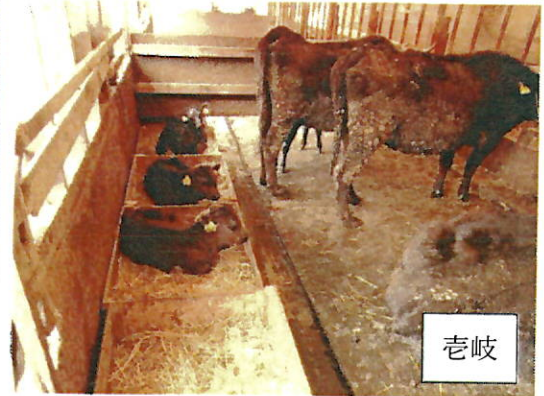
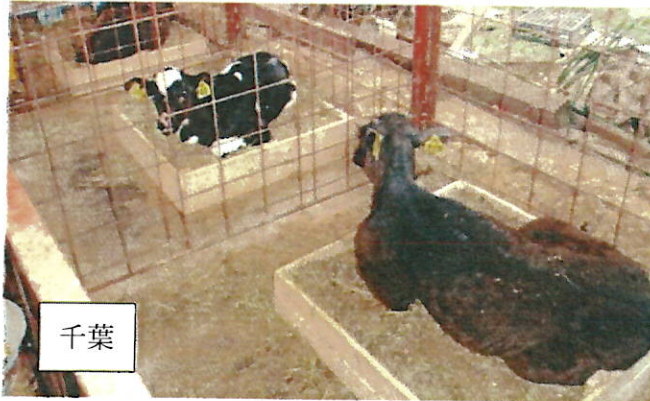
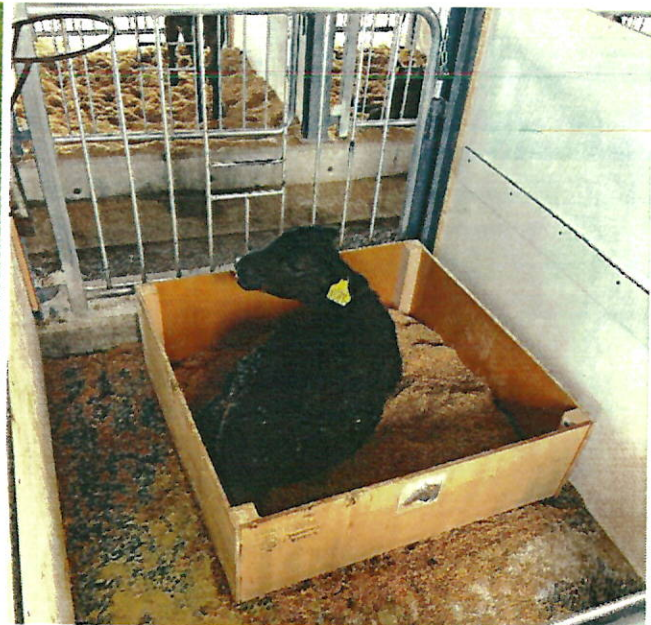


千葉で始まったこの方法は、吉岐でも使えました。そしてここ道東でも・・・
敷料が飛ばないし、毎度交換しなくてよい(糞だけ取り除く。尿は勾配で流れる)、分厚いので快適。



吉岐では親付けしていたので、より効果的でした。推奨は、内寸法で80cm、高さ15cm程度ですが、今回は下のようにパネコート(コンパネ)で作ったので90cm。高さを少し高くしてみました(30cm)。手前の下に隙間をあけて水はけ口を付けました。また、手前が分かりやすいように絵(富田美穂さんの絵葉書)も貼りました。



設置された翌日に見に行ったら・・・牛が使ってくれていました(「外で寝ていることもある」そうですが、選択の余地があることも重要なポイント)。ここでは敷料はモミガラです。モミガラは水分を吸収しないので、薄くなると、はだか尿ヤケしてしまうことがあります。だから分厚く敷きたいのですが、全体にするより、このように囲うと無駄になりません。もっと厚くすることをお勧めします。特に、子牛を親牛のそばで飼っておられる方には清潔度も増すのでお勧めです。

命名「箱入り娘」